

在宅医療の定着目指し 仲間と作ったDr.ネット

白髭 豊氏

白髭内科医院院長

●しらひげ ゆたか氏

- 1961年 長崎市生まれ
- 88年 東京医科大学卒業、
長崎大学医学部第一内科入局
- 89年 長崎市立市民病院内科勤務、
佐世保中央病院内科勤務
- 90年 国立がんセンター病院内科勤務
- 92年~94年 米国チューレン大学医学部留学
- 94年 上戸内科病院勤務
- 95年 白髭内科医院開業



診療所、病院の医師たちが相互に協力しながら在宅医療を展開する「長崎在宅Dr.ネット」が、新しい連携システムとして注目を集めている。事務局を務める白髭豊氏は、地域の在宅医療の充実に尽力する一方、自らは癌の専門診療にも取り組む。あふれるバイタリティーが地域医療を静かに変革しつつある。（文中敬称略）



患者宅ではステーションの看護師(左端)と情報交換しながら診療を行うことも



訪問診療は火曜の午後に行う。1日で回りきれないときは外来診療の合間に患者宅に向かう。現在の在宅患者は25人

年2回、ネットワークの医師やケアマネジャー、看護師らが集まって症例検討会が開かれる。7月の第4回検討会には80人が集まった



栄養指導教室を定期的開催。管理栄養士は「Dr.ネット」で「シェア」、各会員の診療所にも栄養指導に向かう。これも白髭のアイデア



スタッフたちと医院の前で。建物は承継後、98年に新築。長崎市都市景観賞を受賞した



在宅医療に熱心な医師たちが自発的に集まり作った「長崎在宅Dr.ネット」。複数の医療機関の医師たちが相互に協力し合うことで、在宅患者の主治医の負担を軽減するのが最大の特徴だ。

この「長崎在宅Dr.ネット」の事務局を務めるのは発起人の一人でもある白髭内科医院院長の白髭豊。祖父の代から続く医家の3代目で、1995年、父の死去により33歳で診療所を承継した。

白髭の専門は腫瘍学と内分泌学で、開業後は

父親と同じく内科を標榜したが、最初から在宅医療に強い関心があったわけではない。しかし、国立がんセンター時代に、化学療法、疼痛管理、中心静脈栄養など、癌の在宅医療に必要な様々な技術を身に付けていたことから、診療の場が在宅へと広がっていくのは自然な流れでもあった。

「在宅医療は、患者さんの生活の場に入っていく、外来とは違った環境で患者さんや家族の方に接する。畳の上に座って血圧を測り、注射をして

いると、台所から夕飯の支度のにおいが漂ってきたりもする。そのように、患者さんの生活を肌で感じながら診療することに、次第に面白さとやりがいを感じ始め、死に場所としては自宅以上のものはないな、と考えるようになった」と白髭。

2000年から始まった介護保険制度も在宅医療を展開する上で追い風になった。周辺に訪問看護ステーションが多数でき、良好な連携が取れる事業所も出てきた。白髭はそのスタッフたちに、癌の疼痛管理など、様々なテクニックを教え、地域でのチーム医療の体制も整えていった。

主治医のほかに副主治医も決める

しかし、在宅医療の現場に問題がないわけではなかった。その一つが患者が亡くなった後に医師が感じる肉体的、精神的な疲労感だった。「末期の患者さんだと、訪問の頻度がだんだん増えていき、最後は1日に何回も、ということになる。患者が亡くなると家族も大変だが、主治医も疲弊する。この状況を何とかしないと、在宅医療はいつまでも定着していかないと考えた」と白髭は話す。

そんなある日、長崎市立市民病院から末期の癌患者を在宅で診てほしいという要請が、ある開業医のところへきた。開業医は患者宅が遠かったことから白髭を紹介、白髭が主治医となったが、開業医は「多忙なときにはサポートする」と約束してくれた。そのひと言は白髭に大きな安心感を与えた。この開業医が「長崎在宅Dr.ネット」の代表を務める藤井外科医院院長の藤井卓だ。

それをきっかけに、白髭と藤井は「これをちゃんとしたシステムにしよう」と考えた。そこで、市内で在宅医療に力を入れていた他の開業医たちにも相談、議論を重ね、現在の「長崎在宅Dr.ネット」を作り上げた。同ネットの仕組みはこうだ。

病院から同ネットに在宅を希望する患者が紹介されると、メーリングリストでメンバーに連絡。患者の居住地と医師の専門性を考慮して、同ネットに参加している「連携医」の中から主治医と副主治医を決定する。基本的に在宅医療は主治医が担当するが、主治医が忙しい場合や病気するときなどは、副主治医が訪問診療をしたり、緊急

対応も行う。つまり、副主治医はいざという時の“安心”を主治医に与える存在というわけだ。

近い将来小規模多機能型の拠点を

2003年3月の「長崎在宅Dr.ネット」立ち上げ時には、13人の開業医が集まった。しかし、在宅を希望する患者が病院から本当に紹介されてくるかどうか不安があった。そこで、白髭たちは市内の病院を訪問し、病院の医師に、開業医で在宅医療に対応するネットワークを作った旨を宣伝して回った。すると、すぐさま長崎市立市民病院や長崎大学などから患者の紹介がきた。病院もこのようなネットワークを待ち望んでいたのだ。

「長崎在宅Dr.ネット」代表の藤井卓は白髭について「彼は私より10歳若いですが、計画性、企画力があり、組織を動かす能力にも長けている。医師だけでなく、看護師などコメディカルからも信頼が厚い。Dr.ネットがここまで成長できたのは、彼の人的魅力に寄るところも大きい」と話す。

現在、同ネットに「連携医」として参加する開業医は37人。このほか、連携医の相談を受けたり、必要なときに往診を行う専門性の高い診療科（皮膚科、眼科など）の「協力医」13人、病院の勤務医で専門的な立場から助言を行う「病院医師」21人が同ネットの構成メンバーだ。2003年3月の発足以来、この7月末までに65人の患者の在宅医療に対応してきた。今や長崎市にはなくてはならない連携システムになったと言えるだろう。

同ネットの今後について白髭は、「立ち上げた我々第一世代が年老いて在宅医療の第一線から退いても、若い世代が引き継げるような、普遍的なシステムに育てていきたい」と話す。

一方、自院についても白髭はしっかりとした展望を持っている。専門の内分疾患や癌の診療を充実させることと、短期入所、通所などの在宅支援機能を持った小規模多機能型拠点の開設だ。「在宅医療の幅を広げるため、病院と在宅の中間の機能を持ち、ターミナルにも対応できる拠点を近い将来作りたい」と白髭。開業医仲間やコメディカルたちと取り組む白髭の地域医療の変革はまだまだ続く。（千田 敏之、写真：秋元 忍）



20 ■ 特集

診療所のための**電子カルテ** 使いこなし術

「連携力」「説明力」「機動力」三つの力をパワーアップ

新規開業の診療所を中心に少しずつ普及している電子カルテ。しかし、導入したものの、電子カルテの機能を十分に使いこなせていないケースが少なくない。先進事例を基に、電子カルテをフル活用して「連携力」「説明力」「機動力」を強化する方法を探った。



22 ■ **これだけは押さえておきたい**
活用上手になるための四つの基本

25 ■ **一步進んだ活用術で**
「三つの力」に磨きをかける

case study

- 25 「**連携力**」…港南中央医院、林脳神経外科内科クリニック、新琴似ファミリークリニック
- 28 「**説明力**」…山村内科、こばやしクリニック
- 30 「**機動力**」…内田医院、きくな湯田眼科、なかた耳鼻咽喉科

33 ■ 特集

介護保険施設 10月 ホテルコスト徴収の衝撃！

介護保険法改正に伴い、10月から介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の入所者を対象に居住費・食費が徴収される。個室の入所者は負担が大幅に増えるケースもあり、大きな混乱が予想される。制度改正の概要を解説するとともに、施設経営への影響度を探った

Report

47 ■ 診療所
外来患者の本音を探るアンケートの「極意」

52 ■ 病院
慢性期病院にも全床個室化の波

ひと

3 ■ ヘルスケアリーダー
**白髭内科医院院長
 白髭 豊氏**
 在宅医療の定着目指し 仲間と作ったDr.ネット

42 ■ インタビュー
**日本病院会会長
 山本 修三氏**
 日病協の当面の目的は2006年改定 将来は病院医療を広く議論する場に

78 ■ 私の病院経営論
医療法人慶成会理事長 大塚 宣夫氏 第二回
 お世話料への批判高まるもおとがめなし お客様こそが我々の最大の“盾”だと実感

連載

83 ■ ヘルスケア・アーキテクチャ
四谷メディカルキューブ(東京都千代田区)
 高級感のあるホテルのような内装

103 ■ IT活用最前線 介護サービス総合支援システム
介護に必要な情報を一元管理し、スタッフ間の情報共有にも寄与

実務講座

88 ■ 病医院トラブル110番日記 第7回

91 ■ 診療所経営相談室
**「高齢の患者が増えてきたので改修して使い勝手を高めたい」
 「開業して1年たつが患者数が伸びない」**

94 ■ 実践! 院長のための人事・労務入門 第8回
職員採用のポイント④ パート職員の雇用トラブルを防ぐ

98 ■ 院長のための税務・会計ABC 第44回
利益の急減、同業と比較…… 調査先はこうして決まる

109 ■ 介護ビジネスパワーアップ講座 小規模多機能型居宅介護サービスの運営の実際④
介護報酬は利用者1人当たり月額25万円程度が妥当か

10 ■ News・Diary
**中医協の在り方に関する有識者会議が改革案を提示、
 医療計画の見直し等に関する検討会が中間まとめ、ほか**

13 ■ 介護ビジネストピックス
**セコムが高級有料老人ホームの展開を開始、
 星医療酸器が有老ホーム事業に参入、ほか**

14 ■ Focus in 介護保険
**厚労省が介護予防サービスのマニュアル案を提示、
 厚労省が介護予防の提供のあり方に関する論点を示す**

16 ■ e定観測 個人情報保護 115 ■ 情報バック 118 ■ フォーラム



P. 3



P. 42



P. 83

今月の表紙

「微風」

清水 操(しみず みさお)氏

1955年東京生まれ。80年東京芸術大学日本画科卒業。82年同大学院保存修復技術修了。院展入選。95年第80回院展奨励賞。2002年東京・銀座のみゆき画廊にて個展。2004年日本橋三越で「清水操日本画展」、箱根・芦ノ湖成川美術館にて「清水操展一夏至南風一」。現在、日本美術院院友。